活動事例発表　　（別紙）

（女性防火クラブによる災害時初動体制の整備など地域防災力強化）

〇福岡県福岡市

　市内玄界島では、平成 17 年の福岡県西方沖の地震体験を活かし、離島であるため消防隊が到着するまで 30 分以上の時間を要し、また、島民の大半が漁業者で、若い男性が漁に出ていることが多く、日中に災害等が発生した場合、島に残っている女性たちが中心となって高齢者や子供たちを守らなければならないことから、玄界島女性自衛消防隊防火クラブは、災害時の初動対応から後方支援活動まで幅広い防災活動を行っている。

小型動力ポンプの取扱い

住民避難誘導

（震度 6 強を想定した総合防災訓練）

〇東京都墨田区

　墨田区では、毎年防災訓練を行っており、昨年は東京湾北部を震源とするマグニチュード 7.3、震度 6 強の地震により、家屋及び商業施設の倒壊、火災、道路の亀裂、障害物の散乱、堤防や橋梁の損壊、道路・鉄道等の交通網の遮断、電気、ガス、水道、電話などの生活関連施設の被害が発生したとの想定で、36 機関が参加する総合防災訓練を行っている。

倒木を切断し要救助者を救出

ホイルローダーによる瓦礫除去

（特に医療関係機関との連携）
〇茨城県日立市
　日立市では、毎年大規模なトリアージ訓練を行っており、昨年は医師会、歯科医師会、薬剤師会、日立総合病院ＤＭＡＴチーム、保健所、市保健福祉部、県防災航空隊、消防本部、消防団、県警、女性防火クラブ、自主防災組織、日立電鉄交通サービスなど約 300 人参加のもとで、大規模災害発生時の情報伝達、各関係機関の参集、関係者の協力による救出・救護・トリアージなどの訓練を行っている。

消防団員による負傷者の搬送

ＤＭＡＴによるトリアージ

（特に福祉施設との連携）
〇福島県桑折町
　桑折町消防団においては、毎年、特別養護老人ホームで夜間に火災が発生したことを想定して、消防団員が主体（５２人参加）となって、施設に入居している要支援者をシーツや担架を利用して、避難誘導を行ったり、ベットから車いすに移動して避難する訓練を行っている。

シーツを利用した要支援者搬送

屋内消火栓取扱い

（消防団など地域が協力する水防活動）
〇茨城県龍ケ崎市
龍ケ崎市は、昭和 56 年 8 月に発生した小貝川堤防決壊（いわゆる竜ケ崎水害）で、家屋半壊 42 棟、床上床下浸水 1,215 棟、浸水面積は市の面積の 4 分の 1 が浸水し、負傷者 2 名の被害が生じたが、消防団員延べ 4,000 人を動員し、被害を最小限に抑えた。この水害を教訓として本年度は、河川管理者との協力のもと、消防団が主体となり、局地的な集中豪雨や急激な河川の増水によって発生する水害に対して、迅速的確な体制づくりを進めることとしている。

土のう作り

土のう積

（消防団が中心の津波防災対策）
〇高知県黒潮町
黒潮町では、南海トラフ地震が発生した場合「最大震度７、最大津波高が日本最大の 34m」という厳しい被害想定がある。地元消防団は「自分の町は自分で守る」という精神で南海トラフ地震としっかりと向き合い、「一人の犠牲者も出さない」防災文化のまちづくりを行政と一体になって進めている。

津波防災シンポジウム

簡易トイレを作っている子供達

（消防団を中核とした地域防災力の充実強化）
〇愛媛県松山市
　松山市では、消防団が多彩な活動をしているほか、消防団員を市全体で応援する「まつやま　だん団プロジェクト」（消防団応援の店）を創設し、200 を超える事業所が消防団員を応援する支援策を講じている。また、職種、年齢、性別などの特徴を活かした「機能別消防団員（郵政団員、大学生団員、事業所団員、島しょ部の女性消防団員）」を全国で初めて導入するなど、中核となる消防団員の確保のため、市民、企業、団体等が全体で消防団を支え、応援する仕組みを創り、市民の消防団活動への理解を高める様々な対策を行っている。

大学生消防団員

郵政消防団員

（女性消防団員による防火防災のＰＲ劇）
〇三重県津市
　津市女性消防団員は、「火災無子の防災教室」という防災劇で、子供からお年寄りまで楽しんで頂きながら、「地震が起きたらどうするか」の問題を提起し、「自分の命は自分で守る」ことの大切さを訴えている。

火災無子の防災教室

防災劇シーン

（少年消防クラブの防災活動）
〇宮城県気仙沼市
　階上中学校少年消防クラブは、９年前から学校全体で総合防災学習に取り組んでおり、年間 35 時間の学習により、自助、共助、公助について３年サイクルで学習している。特に、総合防災訓練では生徒たちが、救出班、救護班、テント・トイレ班、炊き出し班、避難所班の５つの班に分かれて「私たち中学生が災害時にできること」を重点に積極的に参加している。

避難所開設訓練

防災マップ作成

（少年消防クラブの防火防災活動）
〇埼玉県三郷市
　三郷市少年消防クラブは、幼少の頃から消防・防災に関する知識と技能を習得して、命と暮らしを守ることの大切さを学ぶとともに、軽可搬ポンプの操法訓練などを通し、規律や防火マナーを身につけ、将来の地域防災を担う人材への成長をめざしている。

軽可搬ポンプ操法訓練

転倒家具による要救助者の救出

（消防少年団の防火防災活動）
○東京都麹町
　麹町消防少年団は、小学校 1 年生から中学校 3 年生までの少年少女 55 名により組織されており、防火防災に関する科学的知識と軽可搬ポンプの操法などの技術を習得し、団体活動を通して規律や礼儀を守る習慣を身につけるとともに、地域社会に奉仕する心を養い、健全な心身を持つ少年少女を育成することを目的として防火防災活動を行っている。

地域行事での訓練披露

軽可搬ポンプ操法訓練

（女性消防団員による応急手当体操）
○奈良県奈良市
　奈良市女性消防団員が安全確認、反応確認、胸骨圧迫、人工呼吸など応急手当の動作を取り入れた「やまとなでしこ体操」を創作し、体操しながら救命講習の流れを体得できるようにしている。

やまとなでしこ体操

創作体操のシーン